



メガホンを手に声を張り上げる東京都市大塩尻高の応援団。11日、東京体育館

全日本高校バレー女子

都市大塩尻

4強ねぎらう拍手

バレーボールの全日本高校選手権で、初の決勝進出を目指した女子の東京都市大塩尻高校（塩尻市）は11日、東九州龍谷高校（大分）に1-3で敗れた。昨年の全国高校総体優勝校を相手に、第1セットを先取して最後まで粘り強く戦った選手に、一生懸命に応援した生徒や保護者ら約600人は温かな拍手を送った。

【18面参照】

生徒・保護者ら600人応援

応援の中心は、バス4台で東京体育館（東京）に駆け付けた生徒約160人。メガホンをたたきながら、応援歌を歌った。第2セットも一進一退の攻防が続ぎ、サーブミスやブロックで得点するたびに「いいぞ」「よし」と力強い声を上げた。第3セットから守勢に回る場面が増えたが、最後まで「止める」「スパイクを決める」と、選手を後押しした。都市大塩尻高は昨年の前回大会以降、全国大会で3回続けて16強止まりだった。前主将で都留文科大1年の松尾奈津子さん（19）＝山梨県都留市＝は「準決勝進出と聞いてうれしかった。自分も一緒にコートに立っている気持ちで応援した。おめでとうと言いたい」。4強に名前を連ねた後輩をねぎらった。同校野球部で1年の小林成希君（16）は「最後まで諦めずに戦った姿を見習いたい」。窪田美侑選手（3年）の父健二さん（45）＝小泉郡青木村＝は「最後の大会でベスト16の壁を乗り越えてくれた。いい試合だった」とたたえていた。

■この記事・写真等は信濃毎日新聞の許諾を得て転載しています。無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。